

事務事業マネジメントシート(令和 3年度実績と令和 4年度計画)

令和 4年12月 7日 更新

事務事業名		鍼灸費助成事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	2 福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	緒方 寿雄
	施 策	5 健康づくりの推進				所属課	保険年金課	担当者名	佐藤 美奈
	施策の柱	19 病気になるらない生活習慣の確立				所属班	保険年金班	(内線)	1172
予算科目		会計 国保	款 6	項 1	目 2	事業連番 10363	根拠法令 合志市国民健康保険はり・きゅう施術利用規則		
終了、開始年度		☐ 3年度で終了 ☐ 3年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	一世帯あたり年間30枚を限度とし、申請に基づき交付する事業である。合志市指定施術所のみ対象となり、1回当たり1,000円を補助する。保健事業の一つとして、新市発足時から実施している。(旧町時代2町とも実施)。平成20年度より後期高齢者医療制度の創設に伴い、国民健康保険から後期高齢者医療制度に移行された分、国保からの負担が減った。
【業務の流れ】	被保険者が申請し、過去の交付実績や納税状況を調べ利用券を印刷し交付する。
【主な予算費目】	負担金補助及び交付金
【意見や要望】	はりきゅうの利用者からは補助があり助かっていると支持を得ている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 3年度実績(3年度に行った主な活動)(DO) 申請者に補助券を交付し、指定施術所からの請求に応じ支払った。		4年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 前年度と同様。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア: 交付世帯数	世帯	はりきゅう利用補助金の増	
→ イ: 交付枚数	枚		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 合志市民(国保加入者)	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
	世帯	→ ア: 国保世帯	
		→ イ:	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 鍼灸をして患部の改善を図った	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
	枚	→ ア: 鍼灸券使用枚数	
		→ イ:	
*③成果指標設定の理由と 4年度目標値設定の根拠 使用枚数がそのまま鍼灸利用者になるため。			総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	31年度 実績(決算)	2年度 実績(決算)	3年度 目標(当初予算)	3年度 実績(決算)	4年度 目標(当初予算)	5年度 予定	6年度 見込	7年度 見込
① 活動指標	ア	世帯	108	112	112	124	124	125	126	127
	イ	枚	3,240	3,360	3,360	3,342	3,360	3,356	3,360	3,368
② 対象指標	ア	世帯	6,895	6,972	6,970	6,985	7,050	7,060	7,070	7,080
	イ									
③ 成果指標	ア	枚	1,020	1,013	1,056	1,348	1,380	1,356	1,370	1,383
	イ									
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	1,147	1,013	996	1,348	1,380	1,356	1,370
	人 件 費	(A) 事業費計	千円	1,147	1,013	996	1,348	1,380	1,356	1,370
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	6	7	5	6	5	5	5
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間		時間	89	110	60	140	60	60	0
	(B) 人件費計		千円	352	433	239	547	239	239	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	1,499	1,446	1,235	1,895	1,619	1,595	1,370

事務事業名	鍼灸費助成事業	所属部	健康福祉部	所属課	保険年金課
-------	---------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 3年度の後評価、ただし複数年度事業は 3年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 3年度目標達成度評価	☒ 達成した 目標を達成しており、鍼灸券の周知が浸透してきていると考えられる。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	② 4年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 医療機関での治療効果がない場合は、医師の同意書があれば療養費としての給付ができるため。	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	☒ 他に手段がない ⇒【理由】 鍼灸の補助という独立した事業であり、類似した事業は無い。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 整形外科の治療で効果がみとめられないものについては、医師の同意書があれば療養費としての取り扱いができるため。	☐ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最低限で実施している。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 公平・公正である ⇒【理由】 国保世帯すべてを対象としているので公平・公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市で国保の資格を確認する必要がある、個人情報（滞納等）の取扱いの点で困難であると考えられる。

3 評価結果の総括（CHECK）

利用券の発行・施術所への支払いを問題なく処理できた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							